

中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会報告 その2

中川村保育園、小・中学校のあり方検討のこれまでの経過については、広報なかがわ5月号(No.528)でお伝えしました。本年度末には検討委員会から答申をいただき、あり方についての基本方針を定める予定です。

6月21日(火)に第5回検討委員会が開催されました。今回はこれまでの協議、学習会、視察などを踏まえて「中川村の教育のよいところや課題」および「よいところを伸ばし、課題を克服するアイデア」について意見交換を行い、あり方の方向性を導き出すための協議を行いました。

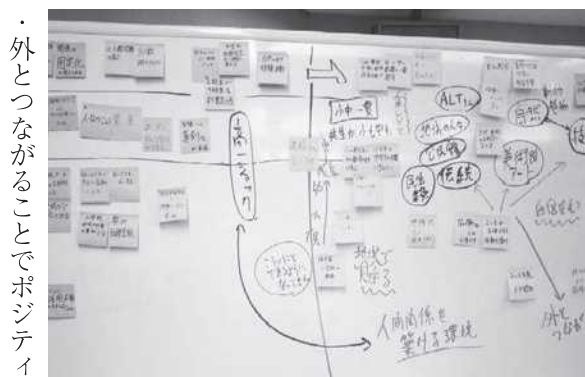


◆意見交換を行う

最初に、今回のあり方検討の業務支援委託をしている特定非営利法人SCOP(スコップ)から資料説明を行いました。「30年後の児童生徒数の推計」、学校職員からの聞き取りを基にした「小学校2校体制のよさや課題」、「児童生徒の特徴」などです。その後、委員は2グループに分かれて、「中川村の教育のよいところや課題」および「よいところを伸ばし、課題を克服するアイデア」について意見交換を行いました。

ふせん1枚に一つの意見を書いて発表し合います。繰り返し発表し合い、その都度リーダーがふせんをホワイトボードに貼って、グループとしての意見

をまとめていきました(下写真)。(このやり方は参加者一人一人の意見をすべて拾い上げ反映させることができる良さがありません。リーダーは、SCOPのスタッフが務めました。委員のみなさんは、それぞれの立場から熱心にさまざまな意見を出してくださいました。そして、時間の経過とともに、それぞれの意見がグループの意見としてまとまりを見せていきました。



◆グループ1の意見の内容

○よいところ、●課題

○人懐こい、素直、真面目
○(少人数なので)友だちと理解し合える

●(少人数なので)人間関係が固定化してしまう

●自分を表現しない
●パワーがあるのかないのか

◆グループ2の意見の内容

○人数が少なくなってくるのでまとまっていく

●小中一貫教育のイメージ
●活気があり楽しくなる

●保小中一貫してつながること
●子どもの成長がわかる

●地域の財産を使っていく
●自然、伝統、文化など

●村外に出る・つながる

・外とつながることでポジティブになれる
・ICTを活用する

●よいところ、●課題

○地域とのつながりが強い
○挨拶が子どもから大人からできる

●自己肯定感が低い
●コミュニティが固定化されている

●高1ショック

●よいところ、●課題

○外とのつながりをつくる
○高校生になるまでに外とのつながりができれば特効薬になるのでは

●強みを生かして課題を克服
●地域の人たちと協力し、いろいろな学びの場を創る

・核になる人材を入れる

③小中一貫教育は資源がまとまって動きやすい

・これまでの協議の内容にもつながってくるのでは

・それぞれのグループのアイデアは内容的に重なっており、

「学校の集約(小中一貫教育)」、「地域資源の活用」、「村外との交流」という3点が導き出されたと考えられています。

◆委員以外からヒアリング

第5回検討委員会でも導き出されたアイデアについて、委員以外の村民のみなさんはどう考えるか、まずは次のとおり関係するみなさんにヒアリングを行いました。

・学校職員 5月24日(火)

・児童 東小 7月11日(月)

・児童 西小 7月20日(水)

・生徒 中学 7月20日(水)

・保護者(三校PTA) 7月20日(水)

・地域住民(総代会) 7月22日(金)

ヒアリングの結果も踏まえてあり方の方向性を絞っていきたいと考えています。そのうえで、秋には村民アンケートを実施し、村民のみなさんから広くご意見を伺う予定です。

教育委員会総務学校係

TEL 88-11005